

養

養老町勢要覧
YORO TOWN

老

一三〇〇年の絆



二二二 年の

第一章

養老という町名は、養老の滝にまつわる孝子伝説で全国的に知られています。養老は奈良時代の元号としても有名です。『続日本紀』によると、霊亀3（717）年9月、養老に行幸された元正天皇は、多度山にある美泉の水を浴びると若返って美しくなることを知り、この泉で老を養いなさいと告げられ、「老いを養う＝養老」と元号を改められました。また、80歳以上のお年寄りには褒美を与え、親孝行な子どもを表彰しました。養老の名は平安時代に編まれたこの『続日本紀』によって世に知られ、鎌倉時代に著された『十訓抄』『古今著聞集』などの説話集に取り上げられてさらに広まっていきました。来たる2017年には養老改元から1300年の節目の年を迎えます。人と人の絆の礎とも言うべき親を敬い大切にするという孝徳の精神は、この地に脈々と受け継がれ、花開いています。



養老の滝の伝説で知られる孝子・源丞内は、わが国の孝徳心の象徴です。ひと昔前の小学生は教科書に載った源丞内の話を読んで親孝行の大切さを学びました。

親を大切に思う孝行心のシンボルとして
広く親しまれてきた養老の滝の孝子伝説。
1300年前に生まれたこの伝説の
舞台になった養老町は「絆」を大切にするまちです。



ごあいさつ
養老町長 大橋 孝

絆

今日の養老町を取り巻く社会経済情勢は、多くの地方自治体と同様に長いデフレ経済の状況のもと、少子高齢化、CO₂の排出量を含む地球規模の環境保護、自然エネルギーの普及や高度情報化などの課題を抱えています。さらに、昨年発生した東日本大震災によるさまざまな影響のため、行政経営を行う環境としては大変厳しい状況が続いています。

さて、本町は、西暦717年、元正天皇が元号を「霊龜」から「養老」に改元された史実に基づき、元号を町名に取り入れている唯一の地方自治体です。そして、西暦2017年には養老改元から1300年という節目の年を迎えます。本町ではこの年を目標に、夢あるまちづくりを進めるため、「第5次総合計画（絆プラン）」や「行政経営改革プラン」などを策定し、新しい視点から行政改革に取り組みとともに、住民、行政、事業所などとの協働によるまちづくりの推進など、住民視点からの行政経営を行っています。

そして、今後も、より一層の創意工夫を重ね、「誇りと愛着が持てる 絆を大切にす
るまち」をめざしてまいります。

この町勢要覧は、本町の現状と未来に向
かって羽ばたく姿をつづつたものです。

多くの皆様にご高覧いただき、本町のまち
づくりについてお力添えをいただければ幸い
です。

CONTENTS

第一章	
1300年の絆	01
絆のはじまり	02
古代から栄えたまち	06
水と闘い水と生きる	08
風土と人が育んだ絆	10
第二章	
今に生きる絆	12
絆の暮らし実感	14
ここで暮らす喜び	18
輝く人のまち 輝く瞬間	20
活力のあるまち 伸びゆく養老の力	22
安全・安心なまち 絆のふるさと	24
地域経営の推進 絆をつなぐまちづくり	26
主な年間行事	28
INFORMATION	

環境省選定の名水百選にも指定されている菊水泉。孝子伝説にある親子の情愛の清らかさを映すかのように、澄んだ清水が今もこんこんとわき出しています。



第一章

一三〇〇年の絆

絆のはじまり

親思いの息子が岩間の泉からわき出たお酒になった水を汲み、老父に飲ませたところ、見違えるように若々しくなったという養老の滝にまつわる伝説。人と人の絆の基本である親と子の心のふれあいをつづつた1300年前の心あたたまる物語は、この地から全国に広まっていきました。



養老神社境内にある菊水泉。孝子伝説に登場する酒のわく泉は菊水泉とする説が有力です。

養

老町のシンボル・養老の滝が舞台になる孝子伝説は、戦前には親孝行のモデルとして教科書に必ず掲載されました。

「昔、美濃の国にきこりの青年が年老いた父親と暮らしていました。青年は親思いで、酒好きな老父に思う存分お酒を飲ませてあげたいと思っていましたが貧しくてできませんでした。ある日、青年は山中でお酒がこんこんとわき出る泉をみつけました。青年が汲んで帰ったそのお酒を老父が喜んで飲み続けているとすっかり若返りました。」

これが孝子伝説のあらましです。親と子の絆のすばらしさをうたいあげ、人の心をあたためてきたこの伝説は人間関係が希薄になったと言われている現在、さらに輝きを増しています。



養老公園の奥、巨岩巨木に囲まれた幽玄の地に水音を響かせる養老の滝。高さ約30mから放たれた水がとうとうと流れ落ち、名瀑らしい威容を見せています。



総面積約78万㎡の養老公園は、養老山麓の自然を活かした都市公園です。園内には養老町のシンボルで日本の滝百選に選ばれている養老の滝や神社仏閣、各種施設があります。



絆のはじまり それは まちを包む 絆の源

養

老町は海拔0mの平野部から標高859mの養老山を擁する養老山地とその山麓

部まで変化に富んだ景観を持つ、自然の豊かなまちです。河川がうるおす肥沃な土壌に恵まれた町東部の平野部は、その大部分が農地として利用され、のどかな田園風景が広がります。一方、町の西側に位置する養老山麓一帯は一部が風致地区に指定され、緑の濃い自然の景観が守られています。養老山地は豊かな水の恵みも授けてくれ、伝説の滝としてその名を全国に知られる養老の滝や環境省の名水百選に選ばれている菊水泉の源となっています。

いことで知られる希少な淡水魚ハリヨも養老町なら出会うことができます。人は自然なしには生きていけません。現代人にとって自然との共生は永遠のテーマであり、憧れです。本町で自然との共生を示す象徴的な空間が養老公園です。明治13（1880）年の開園と、全国の都市公園の中でも屈指の歴史ある公園で、養老の滝を中心に散策路がめぐらされ、自然と芸術が融合した養老天命反転地などバラエティに富んだ施設を備えています。ここでは養老山麓の雄大な自然と身近にふれあうことができます。季節ごとの自然美を堪能できるのも大きな魅力です。春を告げる桜は、ここ養老公園では雄大な山並みを背景に満開の花を咲かせ

ハリヨ

岐阜県の天然記念物ハリヨはトゲウオ科の淡水魚です。全長4～5cmで、ヒレにトゲをもち、巣を作る習性で知られています。現在は養老町を含む西濃地方と滋賀県の一部のみに生息し、環境省のレッドリストに載っています。



ます。なお、養老公園の桜は飛騨・美濃のさくら33選に選ばれています。涼を求め、水辺が恋しくなる夏、元正天皇や聖武天皇の行幸の栄誉に浴した養老の滝や秣の滝が涼やかな滝音を響かせます。秋は錦秋の名にふさわしく養老の滝や滝上流の滝谷周辺は見事な紅や黄に染まり、人を魅了してやみません。

本町には樹齢がゆうに百年を超える巨木が数多くあります。岐阜県の天然記念物に指定されている六社神社のムクの木を筆頭に、古いものでは樹齢450年以上になる巨木巨樹は、土地の宝として世代を超えて地域の人に愛され、地域の強い絆によって大切に守られています。



(上) 養老天命反転地は現代美術家の荒川修作と詩人のマドリン・ギンズが創造した身体で体感する新感覚のアート空間です。(右下) 六社神社のムクの木。樹高25.5m、根回り10.2m、幹周囲7mの巨木で樹勢は今なお盛んです。(左中段) 養老山頂遊歩道は人気のハイキングコース。標高859mの山頂からは濃尾平野を一望できます。(左下) 養老公園内にある岐阜県こどもの国。約10万㎡の敷地にフィールドアスレチックや遊具など、子ども向けの施設が充実しています。





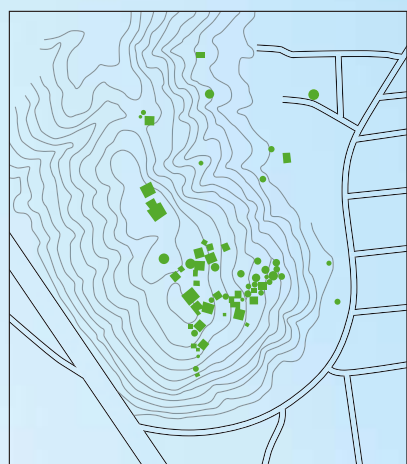
き鳳鏡は、およそ2～3世紀に製作されたもので、象鼻山1号墳の埋葬施設から発見されました。

第一章

一三〇〇年の絆

古代から 栄えたまち

奈良時代の元号を町名に持つ本町は、有史以前から続く、長い歴史を持っています。町内に残る数多くの遺跡・史跡は古から連綿と積み重ねられてきた私たちの先祖の営みを雄弁に物語ってくれます。



標高140mの象鼻山山頂から山麓にかけて70基の墳墓が分布する象鼻山古墳群。墳墓の大半は2世紀中頃から3世紀初頭の短期間に築造されたと考えられています。





多芸七坊のひとつで当時の伽藍配置を伝える柏尾
 廃寺跡からは、千体仏と呼ばれる1500体もの石仏
 が明治時代に発見されています。

養

老町を舞台とする人々の営
 みは旧石器時代に始まりま
 す。町内では、象鼻山古墳

群や京ヶ脇遺跡から旧石器時代の遺物
 が発見されています。氷河期が終わり、
 縄文時代に移ると、海水が溶け出した
 ことよって海面が上昇し、養老町の
 かなりの部分は海の下に水没したと考



石造りの源氏橋。平治元（1159）年、
 平治の乱に敗れた源義朝はここから
 柴舟に乗って尾張方面に逃れたと伝
 えられます。

えられています。弥生時代になると稲
 作が始まり、ムラが形成され、その中
 から力を持ったリーダーが誕生しまし
 た。支配者はどんどん力をつけ、富と
 権力の象徴として古墳を築きました。

古墳時代と言われる3世紀か
 ら7世紀にかけて養老町でも
 数多くの古墳が築造されまし
 た。中でも象鼻山に位置する
 象鼻山古墳群は、前方後方墳、
 円墳、方墳など70基を有する
 大古墳群で、歴史資料として
 も非常に貴重です。また、養
 老町桜井に所在する桜井古墳群の墳丘
 から発見された石室からは5体の人骨
 が発見されています。体格から大陸や
 朝鮮半島から日本に渡ってきた渡来人
 と考えられています。
 中央集権国家の大和朝廷が誕生した
 ころの養老町は「多藝」と呼ばれてい
 ました。朝廷との関わりも少なくな
 きました。「養老」の元号改元や天皇の行幸など、
 当時の書物には度々「多藝」の名が登



濃州三湊と呼ばれた牧田川の3
 つの川港と京都・北陸を結んだ
 九里半街道。

場します。
 中世になると、河川の水運に恵まれ
 た養老町は交通の要衝として発展して
 いきます。また、比叡山の天台宗、白山
 の白山信仰、伊勢の伊勢信仰という巨
 大宗教勢力の本拠地のちょうど中間に
 位置しており、養老山地の山腹一帯に
 は7つの寺院が築かれ「多芸七坊」と
 呼ばれるようになりました。現在も残
 る寺院跡が当時の隆盛をしのばせます。





(右) 宝暦治水の総奉行に着任した平田鞆負が工事の総本部を置いた大巻薩摩工事役館跡。平田鞆負は完工後、この地で自害しました。
 (左) 昭和初期、「牧田川下流改修促進会」を結成し、牧田川の治水工事に尽力した佐竹直太郎の功績を讃える顕彰碑。

そ

の昔、海底にあった濃尾平野は標高が低く、そこに木曾川、長良川、揖斐川の支流が網の目のように流れることから大雨のたびに川が氾濫しました。そこで流域に暮らす人々は水の脅威から身を守るため、土地を堤防で囲いました。この堤防で囲まれた土地が輪中です。輪中は江戸時代に入ると新田開発のために数多く造られましたが、水害の被害は一向に減りませんでした。たまりかねた輪中地帯の農民たちが再三陳情した結果、幕府は外様藩の中で有数の

経済力を持つ九州の薩摩藩に木曾三川の治水工事を命じました。幕府の無理難題に、薩摩藩内は反対意見が大多数を占めました。が、家老の平田鞆負は「美濃の人々も日本の同胞であり、同胞の難儀を救うのは人間の本分である」と主張し、命令に従うことを決めました。宝暦4（1754）年2月、治水工事の総奉行に任命された平田鞆負は、工事を指揮する総本部を現在の養老町大巻に置き、工事区間延長112kmに及ぶ大治水工事に着手しました。薩摩藩士947人は慣れない作業に苦しみ、

一三〇〇年の絆

第一章


水と闘い 水と生きる

多くの犠牲者を出しながら翌年5月工事を完成させました。宝暦治水と呼ばれるこの大規模な治水工事により以後、輪中地帯の水害は激減しました。しかし、水との闘いはその後も続き、昭和34（1959）年には集中豪雨と台風の直撃により牧田川の堤防が決壊し、多芸輪中が冠水するとう壊滅的な被害を受けました。その災害からも見事に復興を遂げ、現在の養老町があります。果敢に水と闘った薩摩藩士をはじめ多くの先人たちは郷土の誇りです。



昭和34（1959）年、西濃地方を襲った8月の集中豪雨と9月の伊勢湾台風で牧田川の堤防は2度決壊。多芸輪中が冠水するなど養老町一帯は泥海と化しました。

役館跡にある宝暦治水で総奉行を務めた薩摩藩家老の平田鞆負の碑。工事は無事完成したものの80余名の犠牲者を出し、40万両という多額の借財を藩に負わせたことに責任を感じ、52歳の生涯を自ら閉じました。



木曾三川流域の輪中地帯の歴史は、
襲ってくる水との苦闘の歴史と言っても過言ではありません。
水との絶えざる闘いに救いの手を差し伸べたのは
養老からはるか遠い薩摩の地の武士たちでした。

大雨が降るたびに
氾濫していた
のが嘘のように
穏やかな表情を
見せる牧田川。



高田祭りで町内を曳き回される3輦の曳軸は、車輪のついた台座の上が180度回転するところが特徴で、岐阜県の重要文化財に指定されています。



室原文楽は文政年間(1818~1829)に養老町に伝わり、農村の農閑期の娯楽として親しまれました。

この地に代々受け継がれ、
守り続けられてきた伝統の祭りと、
まちの今を築いてくれた偉人たち。
養老町に生きること誇りに
感じさせてくれる郷土の宝です。

風土と人が 育んだ絆

一三〇〇年の絆

第一章



2



1

郷土の先人



昔

から地域の人々の心をひとつにしてきたのが神へ感謝と祈りを捧げる祭りです。

養老町には何百年も前からこの地に伝えられてきた祭りがあり、現在も四季の風物詩として住民に親しまれています。春、5月の空の下で催されるのは

3両の曳軸ヒキオシが登場する高田祭りです。曳軸は彫物や見送り幕などで絢爛豪華に飾り立てられた山車で、道中、見事な動きを見せるからくり人形や神楽が披露されるのもみどころのひとつです。秋に行われる室原祭りにも曳軸は登場し、雰囲気盛り立てます。

養老町は伝統芸能の宝庫です。栗笠の福地神社の例祭には、岐阜県の重要無形民俗文化財に指定されている獅子



栗笠の獅子舞は伊勢神楽の流れを汲み、アクロバティックな動きが多いのが特徴です。

舞など伝統の踊りが奉納されます。このほかにも室原地区に伝わる文楽（人形浄瑠璃）や、勇壮な鷲巢白山神社祭礼太鼓など伝統芸能の多彩さは、養老町の文化的な豊かさを物語っています。また、養老町には各分野で偉大な足跡を残した郷土

の偉人が大勢います。学問や芸術の分野でめざましい活躍を見せた人物として、江戸時代に万葉集の研究に取り組んだ国学者の田中道麿、作曲家として歌

謡曲の世界で多くのヒット曲を手がけた山口俊郎、郷土の発展に尽くした人物では、牧田川改修に尽力した佐竹直太郎、養老町はもとより、岐阜県でも唯一の横綱である鬼面山谷五郎などがあります。



室原祭りは、井畑、色目、東向の3瀬古それぞれの広場から軸を引いて、3輦の軸がにぎやかに熊野神社前に飾られます。

①江戸時代の国学者、田中道麿。②養老鉄道を開業した実業家、立川勇次郎。大垣市の出身で西濃地方の発展を願い、養老鉄道株式会社を設立。全線電化工事を行いました。③作曲家の山口俊郎。三橋美智也の『おんな船頭唄』をはじめ数多くのヒット曲を世に送り出しました。④江戸時代の医師、北尾春圃の顕彰碑。名医の誉れが高く、医学書も多く著しました。⑤明治時代に大相撲で活躍した第13代横綱、鬼面山谷五郎。





第二章

絆に生きる

今、家族や地域の絆の大切さが改めて問われています。

親子、夫婦、兄弟姉妹、

友人、知人、隣近所：

人は生きていく中で多くの人たちと関わっています。

その中で、人と人とのつながりを実感しながら、互いを思いやり、ともに支え合い、

活動していくことは、

豊かな地域コミュニティを創造する原動力です。

グローバル化が叫ばれる今の時代にこそ、

一番身近な生活の場である、

地域コミュニティを大切にすることが必要です。

強く結ばれた「家族の絆」「世代間の絆」

そして「地域の絆」が、

活気に満ちた、魅力的なまちを創るのです。

今

これまでの
高い技術を
さらに進化させて
いきたい

インタビュー

絆の暮らし 実感

家族の数だけ、
それぞれの絆のカタチがあります。
あつたかくて、やさしくて、笑顔があふれる
絆を感じられる暮らしのようすを紹介します。



熊田さん一家

好一さん、鈴子さん、芳樹さん、
美和子さん、陽紀くん、愛里
ちゃん、達哉くんの7人家族。
好一さんは現在79歳！その
若々しさの秘訣は、毎日畑に
出て作業しているからだとか。

**養老の滝がある
めぐまれた環境だからこそ、
おいしいトマトができる**

養老町のトマト栽培の歴史は、伊勢
湾台風が襲来した昭和34（1959）年
以降に始まりました。私が現在所属し
ている組合は、当初47名おりましたが、
現在は12名です。しかし、組合員数は
減ってはいますが、年々技術も上がり、
組合全体のトマトの収量はほぼ変わり
ません。今は10アールあたり、20から
25トンくらいの収量があります。

岐阜県産のトマトの特徴は、一年を
とおしての出荷が
あり、一年中食べ
られることです。
10月から翌年6月
に収穫する「冬春
トマト」が代表的
です。私が作って
いるのは『王様ト
マト』のブランド

の一つである『ごほうび』。品種の特性
としては、形が保持されやすいため、
棚持ちもよい。また軟弱しにくく日持
ちするという利点があります。『ごほ
うび』は、そのままでもおいしいです
し、私の家ではジュースにしてよく飲
んでいます。形の悪いものもジュース
にすれば味は同じですし、とっても簡
単でおいしいです。やはり養老の滝が
あるこの町は、水に恵まれているから
こそ、おいしいトマトが育つのだと思
います。

これまでは家内と二人でやってきま
したが、昨年から息子もトマトづくり
を手伝ってくれています。今後の目標
としては、10アールあたり30トンをめ
ざし、これからも頑張っていきたいと
思っています。

初秋のころでも、日中にはハウスの中は40度
を超えることも。どんなに暑くても毎日の世
話は欠かせないそうです。





さわやかな秋空のもと、たわわに実った稲穂が黄金色に輝きます。

3世代家族が多いまち

全国的に核家族化が進行する中、養老町においても1世代当たりの人員数は低下しています。しかし、平成22年国勢調査の一般世帯では1世帯当たりの人員数は3.26、また家族分類別の割合では3世代同居率は24%となり、岐阜県内42市町村のなかでも3番目に3世代同居が多いことがわかります。

息子たちには、農業をとおして、いろいろと教えていきたい

元々、私は会社に勤めていましたが、父が急に亡くなったことをきっかけにイチゴ栽培を始めました。イチゴだけでは難しいということや、今後稲作の担い手を育てていかなければならないという周りの動きもあり、稲作と、時期に応じてイチゴも栽培しています。農業は天気のこともありますし、水管理など大変なことがたくさんあります。しかし、一から十まで手をかけられるのが農業のよさ。全部自分でやらずに、大変なことでも多いですが、その分おもしろく、やりがいがあります。

長男は米の専業農家のオペレーターをしています。米の生産一本のため、冬場はうちのことを手伝ってくれます。次男は大学卒業後から一緒にやっ

ています。元々息子たちにはどこで何をしてもいいと言っていました。どちらも大学生活を町外で過ごし、外の世界を見た上でこの道を選んだということになるので、養老町のよさというものを実感しているのではないかと思います。私もしばらく一般の会社で働いていましたから、社会のきびしさもわかっているつもりです。そのため、息子たちには一般社会に出てもらって、育つように、また一人の人間として接しています。

親父から学ぶことは多いです



橋本さん一家

保さん、幸子さん、美江子さん、匠規さん、智世さん、剛志さんの6人家族。テキパキと息子さんに指示する保さん。きびしいところもありますが、その瞳はやさしさにあふれていました。

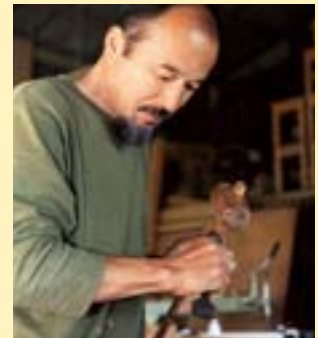
今に生きる絆

第二章

きっかけは
もちろん父です。
コツコツとやって
いきたい



久保田さん一家
堅さん、節子さん、芳弘さんの3人家族。元気な節子さんに、もの静かな堅さんと芳弘さん。父子二人の雰囲気はどこか似ていても、作品にはそれぞれのカラーがあるそうです。



作品の材料にもこだわりがあり、150~250年以上の材木（ナラ材）を使用。

この仕事をしていることで、さまざまな人とたくさんのお会いがありました。若いころは、東京に目が向いて、何も見えていませんでしたが、長く養老町に住むと、住み心地がとてもいいことに気付きました。息子もほかの地域や海外などに行ったりしましたが、養老町に自然と戻ってきました。今の人たちは変化を求めますが、変わらないからこそいいこと、変わっちゃいけないものもあると思います。これからも養老町で静かに仕事ができ、来る人と楽しい会話ができればいいと思います。

私は養老町の生まれですが、東京にある大学へ通うため、養老町を離れた。大学卒業後、東京の家具メーカーにアルバイトとして入り、家具に彫刻を施していたことが家具づくりのきっかけです。そして、2~3年後にやめようかと考えていたとき、ペザントアートの第一人者である林二郎氏の第一弟子の山本俊男氏の作品に出会い、「こんな家具ができればいいな」と思い、昭和58（1983）年に養老町に戻り、工房を開設しました。

自然が豊かで素材がそろっているところが養老町の魅力でした。また、私は作品づくりにおいて、日常生活の中から自然な形で生まれてくるものを大切にしています。驕らず素材で、それでいて日常生活に安らぎや心地よさを醸し出すものができればいつも考えています。この田舎の景色、おいしい空

養老町の豊かな自然や空気がそのまま作品に反映されている



元々、生活している家の方にお客さんを招いていたところ、次第に来られるお客さまに口をそろえて「家具が泣いている」と言われ、ギャラリーを設けたそうです。

『10年以上の想いがある 家族の絆 愛の詩』

養老町では、まちにゆかりの孝子伝説にちなんで「親と子が心豊かにふれあうふるさと」をキャッチフレーズに家族の絆や思いやり、人への感謝の気持ちを大切にするまちづくりを進めています。さらに、全国に「親孝行のまち・養老」を発信する活動の一環として平成12年から家族愛をテーマにした『愛の詩』の全国募集事業をスタートしました。募集は「一般の部」と「小中学生の部」の2部門で、第一回から平成22年の第10回までに延べ約1万6000篇の作品応募がありました。寄せられた作品は選考委員会によって審査され、受賞作品は「家族の絆 愛の詩」発表会で表彰と朗読が行われます。心のあたたまる詩を通じて感動の輪が全国に広がっています。

全国から寄せられた応募作品の中から最優秀賞をはじめ受賞作品を1冊の本にまとめた『愛の詩』シリーズ。



今に生きる絆

第二章



町民会館で開催される「家族の絆 愛の詩」発表会。一般の部と小中学生の部の優秀作品が表彰され、受賞者による朗読も行われます。

募集10周年記念小中学生の部最優秀賞

かあちゃん 神谷 朴秀

おこりんぼかあちゃん。つのがでるよ。
あたまからだけじゃやないよ。
てもあしもせなかも からだじゅうからやよ。
そしたら、ぼくは、あおおになつて
ぼくのめからあめが、ふるよ。
「おとほひとまえて、びーびーなくな。
なくならやまいて、
さるとごしよにないて。」
だから、ぼくは、つよくなるよ、かあちゃん。
おもしろかあちゃん。
ぼくのまえでは、おわりいげいにんやよ。
そのときは、ぼくもかあちゃんも
おわらいのあめが、めからふるよ。
たのしいつていいね、かあちゃん。
ふわふわかあちゃん。
まいにち、ねるときに、
ふとんのなかでえほんをよんでくれるよ。
すくすくうれしいよ、かあちゃん。
そして、ぼくは、
ぬいぐるみと、ぶつくらかあちゃんに
くっついて、ねるんやね。
おやすみ、かあちゃん。

(岐阜県 小一)

1

アクセスに優れた交通網

名神高速道路の大垣IC、関ヶ原ICまで車で約15分、東海道新幹線の岐阜羽島駅まで約30分、岐阜市まで約40分、名古屋市まで約1時間という好立地にあります。



第二章 今に生きる絆

ここです 暮らす喜び

快適な住環境、至便な交通アクセス、充実した行政サービス、養老町は「住みたいまち」「住み続けたいまち」として多彩な魅力にあふれています。

交通機関利用の場合

養老町	烏江駅	養老鉄道 (乗車約16分)	大垣駅	JR東海道本線 (乗車約10分)	岐阜駅
	美濃高田駅	養老鉄道 (乗車約20分)	大垣駅	JR東海道本線 (乗車約30分)	名古屋駅
	養老駅	養老鉄道 (乗車約25分)	大垣駅	JR東海道本線 (乗車約30分)	米原駅

自動車利用の場合

養老町	名神高速道路 関ヶ原IC → 名神高速道路 吹田IC	大阪	(約2時間)
	名神高速道路 大垣IC → 東名高速道路 名古屋IC	名古屋	(約1時間)

2

子育て支援 学校教育 の充実

「養老町次世代育成支援
行動計画」に基づき、
さまざまな子育て施策を
実施しています。
また、保育園から中学校まで
一貫性のある教育体制を
敷いています。



風光明媚な景観も大きな魅力です。

**豊かな自然環境と
恵まれた交通立地が調和した
「定住したくなる」まち**

本町は本州のほぼ中央に位置するこ
とから東西交通の要衝として栄えてき
ました。現在も名神高速道路と整備が
進められる東海環状自動車道の2つの
高規格幹線道路の結節点に位置し、東
海環状自動車道の養老インターチェン
ジ（仮称）の設置が予定されるなど、
県南西部の重要な交通拠点としての役
割を担っています。県庁所在地の岐阜
市や東海地方の中核都市である名古屋
市も通勤圏内です。

町の西には養老山地が連なり、そこか
らならだかに扇状地が広がり、うるお
いのある田園風景が見られます。さら
に「孝子伝説のまち」ならではの人と
人の絆を大切にする思いやりとやさし
さに満ちています。

町では定住化の促進を図って、若い
世帯向けには雇用の確保や創出、公的
住宅の改善整備をはじめとする住宅整
備、子育て支援サービスなどを充実さ
せています。あらゆる世代の人にとっ
て「住み続けたい」「住んでよかった」
と実感できるまち、それが養老町なの
です。

至大阪
滋賀県

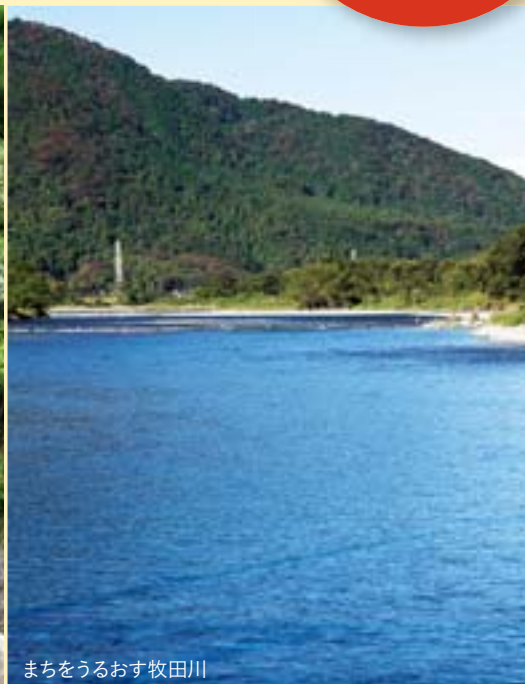
3

恵まれた 自然環境と 雄大な景観

濃尾平野と養老山地という
2つの表情を持ち、
緑と水に恵まれた美しい自然が自慢です。
養老山麓にある養老公園では
四季折々の自然が満喫できます。



名瀑 株の滝



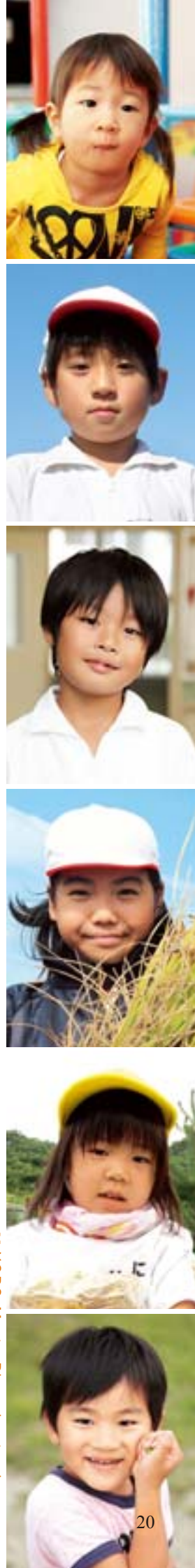
まちをうるおす牧田川



季節のうつろいを感じる田園風景



春爛漫の養老公園



今に生きる絆

輝く人のまち

輝く瞬間

人を大切にする養老町には、元気に学び、働き、暮らしている人たちのいきいきとした笑顔があふれています。

本

町は、まちづくりを支える人づくりに力を入れていきます。人づくりの基礎になるのが教育です。本町には町立の幼稚園6園と小学校7校、中学校2校があり、幼稚園、小学校、中学校まで円滑な接続を図ることで、創造性豊かな子ども育成を図っています。また、家庭や学校だけでなく地域全体で青少年育成に取り組み、世代間交流やボランティアなどの社会参加活動を推進するほか、「子ども会フェスティバル」や「青少年の主張大会」などの開催を通じて、



友好都市提携を結ぶドイツ・バッドゾーデン市と相互に交流団を派遣し、文化やスポーツなどの草の根交流を行っています。

青少年の健やかな成長を地域ぐるみで見守っています。

生涯学習については「親孝行と生涯学習を進めるまち養老」町民会議が生涯学習の旗振り役として町民会館や中央公民館、各地区の公民館を拠点に各種講座や研修会などさまざまな学習活動を展開しています。住民のスポーツ活動も盛んで、養老町体育連盟や各地区の体育振興会が主催する町体育大会やマラソン大会、各種スポーツ大会やスポーツ教室には大勢の住民が参加して気持ちのいい汗を流しています。

TOPICS

公民館まつりなど、行事が豊富

養老町では住民参加の催しものが一年を通じて開催されます。新春を飾る養老新春マラソン大会、春の公民館まつり、町体育大会、養老の滝開きやアクアフェスティバル、秋の養老公園もみじまつり、文化フェスティバル、産業フェスティバルなどが主だったもので内容はバラエティに富んでいます。これらのイベントにはあらゆる世代の住民が積極的に参加し、住民同士が交流するよい機会になっています。





①ものづくりや収穫体験などを通じて豊かな情操を育てています。②男女共同参画のまちづくり条例を施行。男女共同参画社会推進大会を開催するなど啓発に努めています。③ライフステージごとの学習ニーズに対応した講座や研修会などを実施し、学習を通じて交流を促進しています。④世代間交流を推進しています。⑤県立大垣養老高校の生徒たちによる恒例の剪定実習。地域住民と協力して公園美化に取り組みます。⑥子どもから大人までスポーツに親しんでいます。⑦清掃活動などボランティア活動が盛んです。⑧養老町図書館では定期的に読み聞かせを行い、読書の楽しさを子どもたちに伝えています。





三重県桑名市と岐阜県揖斐川町を結ぶ養老鉄道。住民生活に欠かせない身近な交通手段として親しまれています。

快

適な生活を営むうえで、ま
ちの基盤整備は必要不可欠
です。本町は鉄道、高速道、
広域幹線道路が町内を縦断する交通
の便に恵まれた立地にあります。現
在、延伸整備が進んでいる東海環状
自動車道路は養老インターチェンジ
(仮称)の開業が決定し、モーターゼー
ションのさらなる進展が期待されて
います。

養老鉄道は開業以来、通勤通学など
住民の日常生活に広く利用されてきた
本町の大動脈で、行政と住民が一体に
なって守っていかなければならない存
在です。民間バスの路線縮小を補うた

活力のあるまち

伸びゆく 養老の力

東西交流の結節点という立地を活かした
基盤整備を進め、人が交流し、
にぎわいのあるまちづくりを進めています。

建設が着々と進む名神高速道路と東海環状自動車道を
結ぶ東海環状自動車道・養老ジャンクション（仮称）





養老インターチェンジ（仮称）の開業が決定している東海環状自動車道は2020年の全線開通をめざして工事を進めています。

》》YORO MasterPlan chapter.2



(上) 町の産業をPRする産業フェスティバル。地元の新鮮な農産物や特産品の展示直売、実演販売や体験コーナーがあり、毎年、大勢の来場者でにぎわいます。(下) 養老山地の豊かな伏流水を利用して、酒造りも行われています。

めに運行する公共施設巡回バス（げんちゃん号）は現在4路線が運行し、高齢者を中心に住民の貴重な足として広く利用されています。

土地利用については、東海環状自動車道養老インターチェンジ（仮称）開業の波及効果による企業・事業所の立地や住宅地の開発などのニーズが高まることが予測されるため、都市機能の向上を図って整備を進めています。

地域に活力を生む産業の振興では、東海環状自動車道養老インターチェンジ（仮称）の開業を視野に、以前から取り組まれてきた企業立地の促進をさらに強力に推し進め、交通アクセスの利便性をアピールし、養老山麓エリアに企業や事業所の誘致を図ることで新たな就労・雇用の創出をめざしています。

TOPICS

養老の特産品

「養老の滝」伝説ゆかりの名水の里として知られる養老町は、ミネラルウォーターやサイダー、日本酒など水の恵みを活かした商品開発が盛んです。良質な水が育んだお米、野菜などの農産物やハム・ソーセージなどの加工品も人気です。これらの特産品は、養老公園内にある「楽市楽座・養老」で販売されています。





(上) 留守家庭児童教室は、共働き世帯など親が昼間いない家庭の児童が放課後に勉強や遊びをして安全に過ごせる場を提供しています。(右下) 地域の児童たちの登下校を見守るシルバー警備隊 (左下) 正しい交通マナーを指導する交通安全教室

安全・安心なまち

絆のふるさと

地域の住民同士が支え合い
生涯にわたって安全・安心に
暮らしていけるまちづくりを進めています。



核

家族化や共働き世帯の増加など社会情勢の変化により、子育てが昔に比べて難しくなっています。養老町では「養老町次世代育成支援後期行動計画」を策定し、子育て支援の環境整備に取り組んでいます。現在町内には公立5園、私立7園の保育園があり、多様化する保護者のニーズに応じて、長時間保育や延長保育などの保育サービスを充実させています。また、地域子育て支援センターの設置やひよこハウス子育てサロンの開催を通じて、育児に関する

相談や情報交換、親子の交流の場を提供しています。

生涯を通じて健やかに暮らせるように「健康ようろう21」に基づき、ライフステージに応じた健康づくり活動を進めるとともに、基幹病院である西美濃厚生病院と診療所との病診連携を図るなど地域医療の充実に取り組んでいます。

3世代同居世帯が比較的多いことが特徴である本町でも、近年は高齢化の進展にともない、高齢者世帯が年々増加しています。本町には介護施設として介護保険施設が5カ所ありますが、

住み慣れた地域で安心して暮らせるように在宅福祉サービスのさらなる充実に努めています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の教訓を踏まえて、防災体制の強化が求められています。本町は地理条件から水害被害を多く受けてきたため、防災意識が高く、町内各区には自主防災組織として167隊の防災隊が組織されています。より一層の地域防災力の向上を図って「養老町地域防災計画」に基づき消防・救急の充実を進めています。

TOPICS

子育て応援ガイドようろうっこ

子どもが健やかに育ち、安心して子育てができるように、子育て情報が満載のガイドブックを作成しています。



「eブックレット」でインターネット上の閲覧が可能で、子どもに関する各種手続きや成長カレンダー、施設の紹介、子育ての豆知識など必要な情報がいつでも、どこでも簡単に見ることができます。



(上) 未就園児の子育てをサポートする地域子育て支援センター
(下) 地域を火災から守るため消防技術の向上に努める消防団



今に生きる絆
第二章

絆をつなぐ まちづくり

「自分たちのまちは自分たちの手でつくる」
地域の絆を確かめ合いながら、
協働のまちづくりを進めています。

第二章

今に生きる絆

ま ちづくりの主役は住民です。養老町では住民がまちづくりに参画しやすいように、月1回発行の「広報養老」や町ホームページ、ケーブルテレビを介して地域情報を提供するとともに、町行政に対する住民の意見や要望を吸い上げ、きめ細やかに施策に反映させるため、意見箱の設置や地区単位で行政懇談会を開催しています。

高齢化対策や防災に関して、地域コ

ミュニティの重要性が改めてクローズアップされています。本町のコミュニティ活動は131ある区（自治会や町内会）とその区をさらに細分化した班単位を中心に行われています。住民自治と地域協働のまちづくりを進めるため、地域の課題に自主的に取り組みまちづくり活動を積極的に支援しています。

少子高齢化や高度情報化の進展、環境問題への関心の高まりなどを背景に、

運動会などの地域行事から防災・防犯活動まで本町のコミュニティ活動は広範にわたります。





住民の意思を体現し、町行政と協力して住民自治を推進する養老町議会

》YORO MasterPlan chapter.4



(上) 役場窓口ではワンストップサービスなど住民サービスのより一層の向上に努めています。(下) 月1回発行の『広報 養老』は町政やまちのできごとを掲載し、養老町の今を伝えています。

住民の行政へのニーズは高度化、多様化しています。その一方、地方自治体の財政状況は依然厳しく、より効率的な行財政体制の整備確立が不可欠です。地方分権で住民に最も身近な町行政への期待が高まる中、本町では行政経営改革プランを策定し、事務分担の見直しや組織・機構の改革、情報システムの整備を推進することにより住民サービスの向上を図っています。同時に地域活性化や定住促進など本町の課題にも取り組んでいます。

TOPICS

養老 CATV

平成18年に養老局が開局した CCNet (中部ケーブルネットワーク (株)) のコミュニティチャンネルでは『Yoro ちっく』『広報立ち読みチェック』など

養老町制作の番組が放映され、行政情報や地元ニュースを提供しています。災害時などには緊急情報も配信されます。



一三〇〇年の絆

絆を大切にすするまち、養老町。

本町の名前の由来となった養老改元から

1300年という節目の年をもうすぐ迎えようとしています。

この長い歳月の間、孝子伝説をよりどころに

人と人、人と自然、そして人と地域との力強い絆が

先人のためまぬ努力によって営々と築きあげられてきました。

そして今、このまちには、

家族への愛情、他人への思いやり、感謝の気持ちが

息づいています。

この地の豊かな自然と

地域ぐるみで支え、支えられ、

人と人のつながりを信じる気持ちに包まれ、




まちの絆はより一層強まり、

未来へ希望をつなげていきます。



平成29(2017)年に開催される「養老改元1300年祭」のイメージポスター。1300年祭のシンボルになる水の女神と滝のパワーをイメージして描かれています。

主な年間行事

11月	10月	7月	5月	4月	3月	1月
下旬	1日 1日	1日	第3土・日	上旬	春分の日 春分の日	上旬
 養老新春マラソン大会	 養老公園の桜	 養老の滝開き	養老の滝開き 養老公園 養老公園納涼滝まつり 養老公園 養老公園もみじまつり	養老の滝 養老の滝開き 養老公園 高田祭り 愛宕神社	養老公園 養老公園花と緑のまつり 養老公園 養老神社 菊水泉の若水取り	町民会館 養老新春マラソン大会 スポーツプラザ養老周辺

INFORMATION

町のシンボル



【町章】

昭和30年4月1日制定。「ヨーロー」のカタカナ文字を孝子伝説の息子が霊泉で酒を汲んだと伝えられるひょうたんの形にデザインしたものです。



【町の花 キク】

昭和50年6月、緑と花の町をめざし、町の花を一般公募して選定しました。



【町の木 ツゲ】

昭和49年10月、町制20周年を記念し、町にふさわしい木を一般公募して選定しました。

町民憲章 (昭和48年3月6日制定)

わたしたちの町、養老町は、緑の山、清らかな水に恵まれた歴史の町です。

わたしたちの、この美しいふるさとを、先人のたゆまぬ努力によって伸びつづけてきました。

わたしたちは、愛の輪をさらにひろげ、力をあわせて未来につづく明るい町をつくります。

- 1. おはよう こんにちは と元気な声がわく町にしましょう
- 1. 美しい自然の中で 力いっぱい 働ける町にしましょう
- 1. おとしよりが 豊かにくらせる 町にしましょう

町のイメージキャラクター スマイルげんちゃん

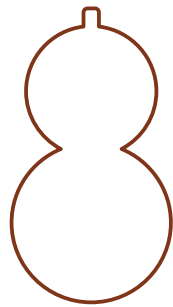
「スマイルげんちゃん」は孝子伝説の主人公、親孝行なきこりの源丞内をモデルにした養老町のイメージキャラクターです。他の市町村に先駆けて、平成2（1990）年にイラストでデビュー。以来、町内外のイベントで養老町のPRに大活躍しています。



ひょうたんと養老町

本町を舞台とした孝子伝説に登場する重要なアイテムのひょうたんは、本町の土産品にもなっています。ふるさと会館では、さまざまな形のひょうたんを展示しています。

養 老



養老町勢要覧

発行年：2012年

発行：養老町

〒503-1392 岐阜県養老郡養老町高田798

TEL：0584-32-1100(代)

FAX：0584-32-2686

<http://www.town.yoro.gifu.jp/>